

[果樹部門]

13. ブドウ樹のクビアカスカシバ幼虫による前年までの被害痕数と当年被害量の関係

[要約]

前年までにクビアカスカシバ幼虫による被害痕数が多かった樹は、当年の被害量が多い傾向があり、同一園内でも被害痕が多い樹に被害が集中する。

[担当] 病虫研究室

[連絡先] 電話086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

これまでの現地ブドウ圃場での観察では、クビアカスカシバ幼虫による被害は同一圃場内でも樹によって程度が異なり、前年までに被害を受けた樹に偏っている傾向が見られている。そこで、前年までの被害痕数と当年の被害量の関係を解析し、両者の関連性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. パダンSG水溶剤の防除試験を行ったピオーネ圃場において、前年までの被害痕数と当年の幼虫の食害による虫糞排出ヶ所数との間には極めて高い正の相関が見られる（図1）。
2. パダンSG水溶剤の散布は、ブドウ樹のクビアカスカシバ幼虫による被害を慣行防除に比べて3～4割程度に削減する防除効果がある（平成23年度試験研究主要成果）。しかし、被害量はパダンSG水溶剤の散布回数よりも前年までの被害痕数の影響を強く受け、同一園内でも前年までの被害痕数の多い樹に被害が集中する傾向がある（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. パダンSG水溶剤の散布に関わらず、前年までの被害痕数が多い樹は特に注意して観察し、必要に応じ手作業で食入幼虫の捕殺を行う。
2. 本虫の被害は若木でも生じるため、新植年から本虫の被害痕を作らないよう防除を徹底する。

[具体的データ]

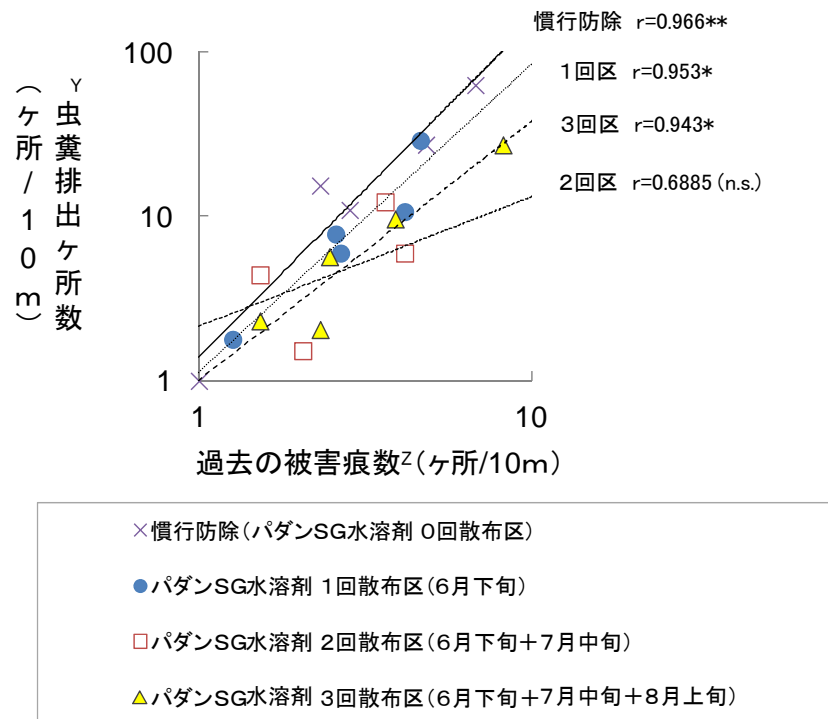


図1 過去の被害痕数と虫糞排出ヶ所数の関係

^Z対数軸で、X+1の数値をプロットした。

^Y対数軸で、Y+1の数値をプロットした。

表1 虫糞排出ヶ所数に対する各要因の有意性と寄与率

要因	分散比	P 値	寄与率 (%)
パダンSG水溶剤散布回数	3.1	0.0567	8.8
過去の被害痕数	48.9	4.34×10^{-6}	65.3

注) 目的変数：虫糞排出ヶ所数 (n=20)、説明変数：パダンの散布回数 (4区5反復)、共変量：過去の被害痕数とする共分散分析結果から作成

[その他]

研究課題名：ブドウのクビアカスカシバの発生生態の解明と防除対策

予算区分：交付金 (病虫害防除農薬環境リスク低減技術確立)

研究期間：2009～2011年度

研究担当者：高馬浩寿、佐野敏広

関連情報：平成23年度試験研究主要成果、37-38